

おこ 地域興しの新しい動き～麻績樂農隊～

座光寺をとりまく地域の変化の中で、地域おこしの新しい動きがいくつか出てきました。麻績の里振興委員会、高岡の森保存会、水辺の里委員会、原地区モデル営農プロジェクトなどです。ここでは休耕田を活用する「麻績樂農隊」を紹介しましょう。

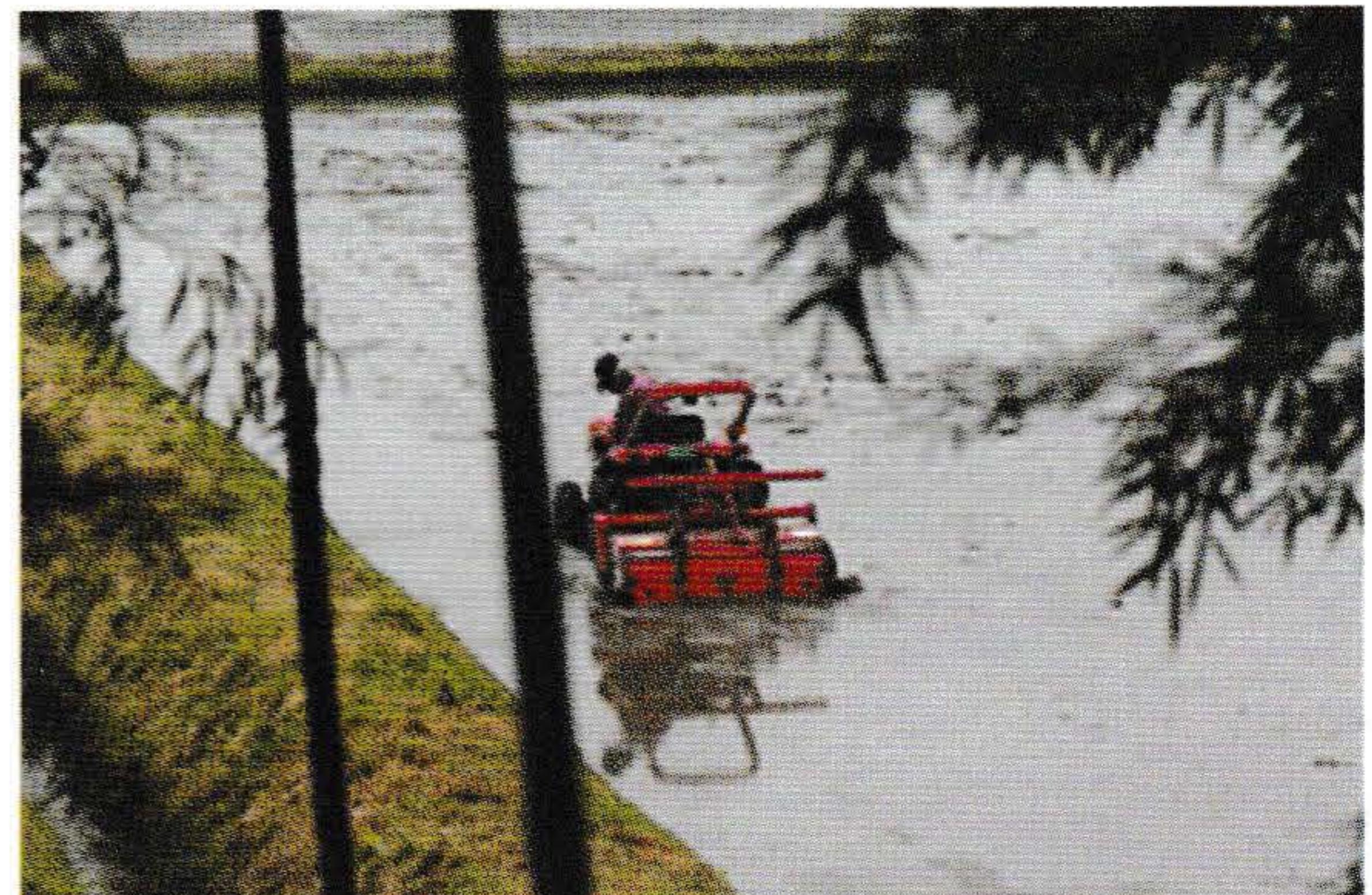
地域の少子高齢化が進むと共に、農業の担い手が少なくなっていました。その結果、田んぼを耕作する人がいない土地が出てきたのです。2000年頃からです。この状況を受けて、いくつかの動きがありました。2008年、何人かの有志が集まって休耕田を借り受け、耕作をし、さらに都会から体験学習の中学生を受け入れようという組織ができました。これが麻績樂農隊です。古井武志会長（清水地区）以下隊員は17名。



溝堀り
手入れされていなかった休耕田は耕す前の準備が大変です。



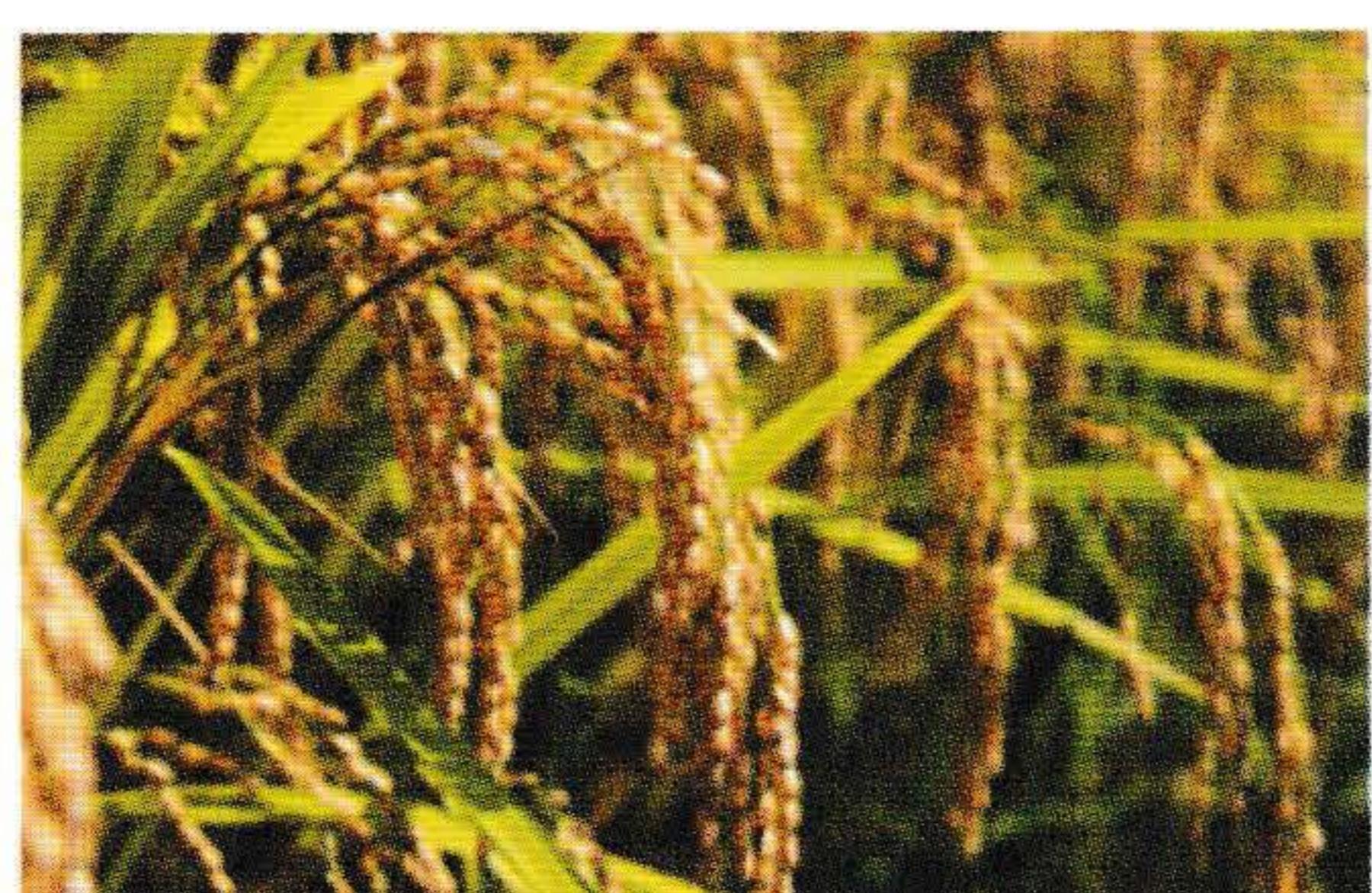
米作りについて、何の知識も無い生徒には事前の講義が行われました。



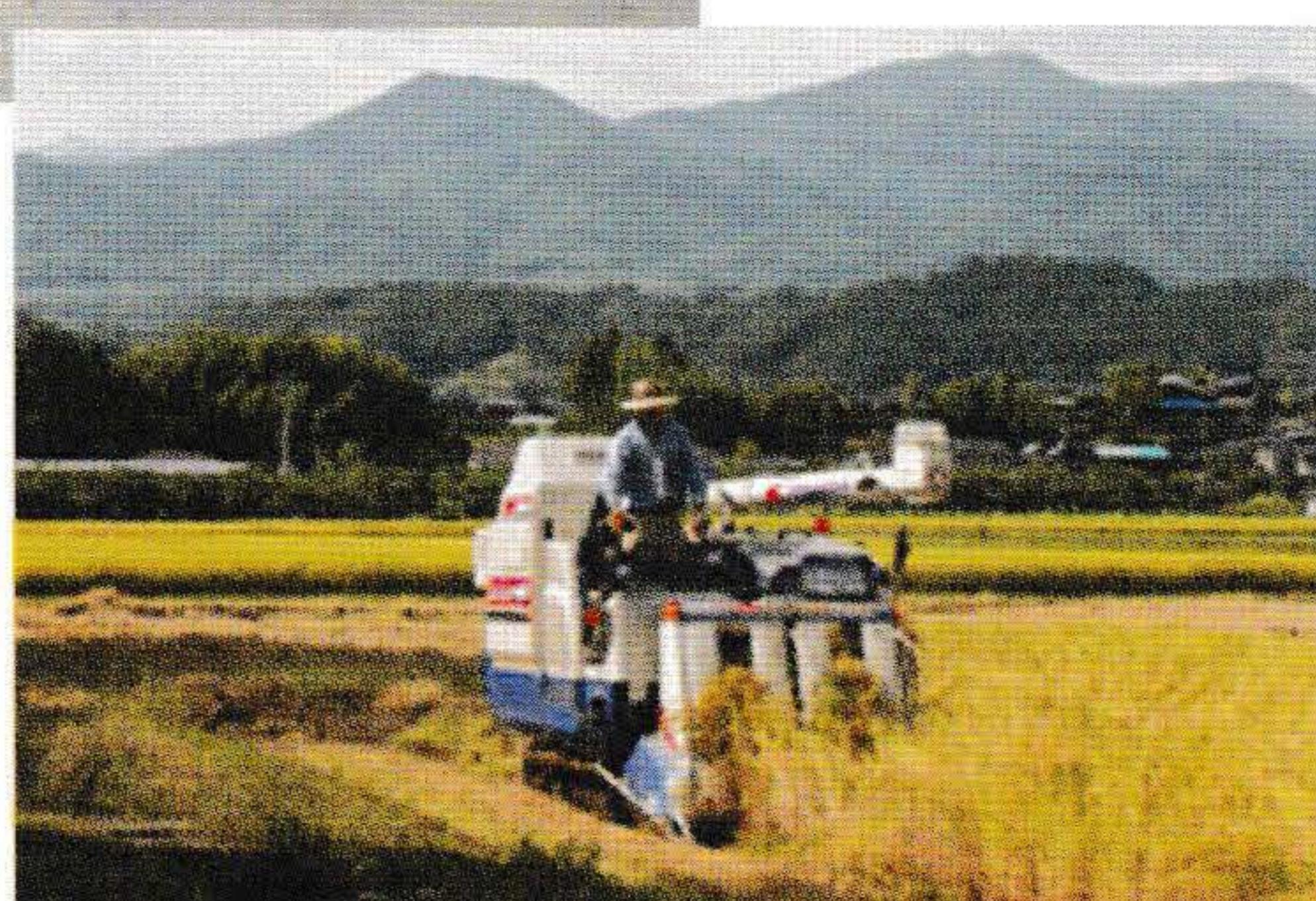
代かきの様子
河原や中河原地区の水田は構造改善がすすみ、機械による作業が可能になっています。ただ、農家にとっては機械の維持も大きな負担になっています。



体験学習に訪れた大阪市立南港南中学校の生徒と田植え作業。生徒たちは初めての田植えに興味津々。最初は田んぼの泥に素足で入ることにも大騒ぎ。最後には「楽しかった。もっとやりたい。」「良い経験をした。」と大好評。収穫後、生徒一人ひとりに精米1kgが贈られました。



作った品種はコシヒカリ。“稔るほど頭をたれる稻穂”です。2008年は大豊作でした。



コンバインによる収穫作業。中河原の土曾川沿い。遠くに座光寺富士が見えます。

(小林正明)